

『グローバル（国際派）子育て3つのヒント！』

はじめに

モモキッス代表の勝田といいます。

現在アメリカのロスアンゼルスで家族3人で生活をしています。



妻は香港出身の中国系アメリカ人で、中国語（北京語と広東語）を話します。

娘のモモは2007年に日本人の父（私）と中国系アメリカ人の妻との間に、アメリカで生まれました。

その結果、現在7歳のモモ（娘）は3カ国語が分かるようになりました。

英語、中国語、日本語です。

英語が分かるのはアメリカに住んでいるから当然といえば当然ですが、

ママ（妻）が出来るだけ中国語を、私が出来るだけ日本語を

モモに対して使うようにしているからです。

ただ私が娘と話しを出来る時間は限られていますので、日本語に関しては、

一昨年から通っている日本語学校が役に立っています。

これを周りや日本にいる人達と話すと、うれしいことですが、

「国際的になっていいね〜♪」というコメントをよく受け取ります。

でも、違う国の言葉が分かること＝国際的なのかな？と少し疑問でもあります。
そこで子育てにおいて国際的とは何なのか、というのを考えてみました。
そしてグローバル（国際派）な子育ての3つのヒントということで、
私なりに次の様に考えてみました。

1. 違う世界がある事を知ること
2. 自分（国）の事を知ること
3. コミュニケーションする力をつけること

これは子育てに限らず大人にも当てはまることかも知れませんね。
また、これは私が16年間のアメリカ生活を通しての、
個人的な考えですのであくまでも参考として頂けたらと思います。

2014年1月、ロスアンゼルスにて



1. 違う世界があることを知ること。

よくアメリカは人種のるつぼと呼ばれます。我が家の近所を見ても、白人や黒人以外にもヨーロッパ系、メキシコ系、中南米系、中国系、韓国系、インド系、中東系、フィリピン系、もちろん日系の人達があります。

お隣さんからはスペイン語の音楽がよく流れてきますし、私の行く床屋さんでは、韓国系のおばさんが髪の毛を刈ってくれます。

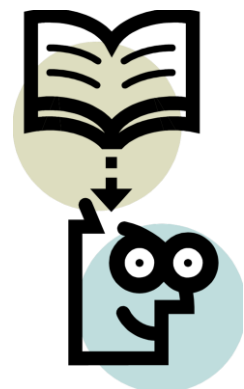
それこそ世界中の人々がアメリカには住んでいるわけです。そしてそれぞれが違った文化や習慣、言葉を持ちつつ共存してるんですね。

基本的に日本語を話す日本人が中心の日本に住んでいると、この感覚はあまりピンと来ないように思います。

例えば最近では、ちょっと前に飛行機の隣の席に座った女性と話した時のこと。私が日本語で書かれた資料に目を通していると、その女性がじ〜っとその資料を見ているんです。

それで私が「これ日本語なんですよ。」と答えると、
「Wow! That is beautiful! (わー！とっても美しい!)」
というコメント。

日本語が“ビューティフル”とは書道でも無い限り、私もあまり考えなかったと思います。



でもアルファベットの様な表音文字を使っている文化からすると、漢字とひらがなやカタカナが入り混じった日本語はとても特異な存在です。

ある種、それがとてもアートの的に見えても不思議では無いんでしょうね。でも普通に日本語を読み書きすることに慣れてるとそれに気が付きません。

また「日本語は右から読むの、それとも左から？」とも聞かれました。なぜかというところの女性、お父さんがレバノンでお母さんがパキスタンのハーフだそう。

そう中東諸国で使われるアラビア語は英語と反対で右から左に読むんです。彼女はアラビア語が読めるので、それと比べていたのです。

そこで私は、「日本語は本当は上から下に縦書きをするのが基本で、それを右から左に読むんですよ。」と話しました。

これにまた「へっ！」という驚きの表情。日本では当たり前でも、他では当たり前じゃないことって、実は本当に多いんですね。

この様な小さな事でも、違った文化を持つ人達と交流することで、日本と違った世界が本当にあるという事を実感出来ます。単に肌の色や顔つきが違うだけでは無くて。

違う文化を持った人達との交流、その機会を子供の頃から提供することで、自分の身の回りに見える世界だけでは無い、外には違った世界があるという事に気づきます。

TVやビデオ、本やインターネットからの情報はとても有効ですが、それで既に知ったつもりになっている場合が多いのも事実・・・私も以前はそういう知ったかでした(^-^;)

でも実際に他国の人々と交流することで、また実際に外国を訪れてみることで、そういったメディアからの情報には限りがあることを知りました。

やっぱりお互いが話し合える、実際の人との交流が一番、特に子供にとっては親近感を感じながら、視野を広げる意味でも良いと思います。

「違う世界があることを知ること」

それがグローバルな人間になるまず第一歩ではないでしょうか。



2. 自分のこと（国）の事を知ること

さすがに最近は少なくなりましたが、以前は初めて会う人によく聞かれました。

「どこから来たの？」

で、私が「Japan!」と答えると、大抵は「私もお寿司が大好き!」とか、「トヨタ、ホンダは素晴らしい車だ!」なんて話になりました。

そういう既にアメリカにいて生活の一部になっていることは知っていても
実際は日本がどこにあるのか、中国や韓国と区別が付かない人も多いのが現実。

あ、「忍者はまだ日本にいるのか？」なんて聞かれたこともあります。（笑）

そういう東洋の未知のハイテク国家から来た手前、自動車やロボット、
また食べ物の話もします。

あと、若い人だとアニメの話もしますが、これについては彼らの方が良く知って
いたりします。さすがに20年前のアニメ知識では古すぎますね。

でもここで何をいいたいかというと、外国人と話をするとき、それがどのような
題材であり、特に最初は自分の国に関わることを話すんですね。

だから最低でも自分はどこから来たか、日本はどこにあって、地理はどうで
人口はどのくらいで、どんな人達がいる、歴史はどうで、気候はどうで・・・
なんていう一般的なことは知っておいて損はないですね。

内容が正しいかどうかは別として、ウィキペディアでJapanが
どんな風に紹介されているかも参考になります。

⇒ <http://en.wikipedia.org/wiki/Japan>

あと最近は大震災と津波のことで日本を知った人が多いのも事実。
だから話のなかで、「マモ（私）の家族は大丈夫だったの？」と聞かれたりする
こともあります。

だからそういった時事の事柄についての自分なりの見解を持っていることも大切かも知れません。

で、大事なのはここから。自分のことをどれだけ話せるか？
どれだけ客観的に知っているか？

生まれ故郷のこと（地理、気候、名産品…）

家族のこと（家族構成、それぞれの

特徴、仕事、好き嫌い、食生活…）

学校、仕事のこと

趣味、好きなこと、興味があること

好きなスポーツ、音楽について

今までで一番悲しかったこと

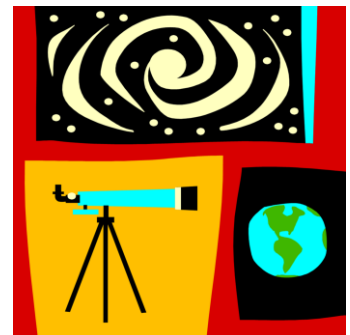
今までで一番うれしかったこと

今まで行ったことがある場所

自分はどんな性格だと思うか？

自分は（将来）どうなりたいか？

等等



これらは少し思いついただけですが、もっともっとありますね。

そう結論からいうと、国際派とか何とかいっても、基本は人間同士のコミュニケーション。日本人どうしの場合と同様です。

自分自身のことを知っておくこと、それを口に出せるようにすることで、相手はあなたのことをより理解しやすくなります。

そしてこちらのことを伝えることで、相手も自分のことを話しやすくなります。そうしたら相手の話に興味を持ってよく聞きます。

そしてもし相手と共通点や共感出来ることが見つかり、国の壁を越えてぐっと仲良くなれるというわけです。

この繰り返しで人間関係をより身近にするコツではと私は思っています。でもこれは大人の私達でも出来ない人が多いですね。

でもなぜ出来ないかという、日本では一般的に小さいときから自分自身を表現する機会が少ないことがあると思います。学校でも聞く授業が中心で自分で発表する機会は少ないですし…少なくとも私が子供のときはそうでした。

また家庭でも親子の会話ではなく親の一方的な“躰”になっていて、子供が自分の意見や考えを言う場が少ないかも知れません。

ですから子育てにこのコツを当てはめると、まずは自分のこと、気持ちや考えを出来るだけ話せる環境を作ってあげること。

「自分のことを話していいんだ！」

と思える環境を作ってあげるのが大事かなと。

よく、子供が何かを言いたい時に

「だまってなさい！」とか「静かにしてなさい！」とかって
忙しいときはついつい言ってしまいますよね。

ここをぐっところえて、聞いてあげる、または聞く時間をちゃんと作って
あげるだけでもずいぶん違うと思うんです。

それは子供の表現力を伸ばすだけでなく親子の関係にもとっても良い影響を
作ってくれるでしょう。

そして一緒に自分自信のこと、家族のこと、住んでいる地域のこと、
更に住んでいる国のことなどをお互い話し合ってみたらいかがでしょうか？

加えて他の国のこともいろいろと話してみると（もし海外渡航の経験があったら
それを含めて）、ヒント1の“違う世界がある事を知ること”にもつながると言う
訳です。

「自分のこと（国）のことを知ること」

こういったことを学校任せにするのではなく、家族で出来るようになったら、
グローバルな子育てにとって大きな前進ですね！



3. コミュニケーションする力をつけること

私も最初アメリカに来た頃、英語力に正直自信がありませんでしたから、学校のE S Lクラス（移民のための英語クラス）でも周りのクラスメートの方がずっと英語が上手だと思ってました。

でもしばらくして、それが間違いであることに気が付きました。だってメキシコやイラン、韓国や台湾、東欧出身の彼らの英語はかなりメチャクチャだったんです！

そう彼らも私と同じように外国から来た移民や留学生なんですね。それで同じように英語で苦労してるんです。

この事実が気が付いてから、ずいぶんと気が楽になりました。そして私の中学卒業程度の英語力もまんざらでは無いなど。

今でも私の日本語なまりの英語も聞けたもんじゃありませんが、例えばインド系なまりに比べれば可愛い方かも知れません。国ごとの訛りあるんですよ～♪

そう、こういった他国からの移民や留学生の人達と比べて、日本で中学高校と学んできた人達の英語レベルは実はそれ程悪くないんです。

ですから英語が苦手だな～と思っている人も、実は自信もってもいいんですね。

でも私が語学学校や、大学のE S Lクラス、またその後知り合った多くの日本から来た日本人の方々を見たとき少し感じたことがあります

それは、日本では謙虚であることが 美德とされているためか、自らの意見を積極的にする人が少ないということ。どちらかという受身の人が多いような気がするんですね・・・私もそうでしたが。

逆に他国からの移民、例えば前述のインド系の人達なんかは、自分のなまりなんか気にしていません！ 言いたいことを何度でも繰り返します。

実際アメリカでは待っていても、正直なところ誰も助けてくれませんから、何か必要なこと、言いたいことが あったら自分から伝える努力が必要になります。

良い例がアメリカ系の航空会社と 日系の航空会社の客室乗務員の違い。
アメリカ系の航空会社の客室乗務員は、こちらが呼ばないと来てくれません。
あと、年配の方が多い。（50代のスチュワーデスさんもざらです）

比較して日系の航空会社では、お客さんの様子を見て何かあったら、「大丈夫ですか？」なんて言ってくれます。そう気がきくんですね。そして一般的に若い人が多い。（若いから気が利くという訳ではありませんが）



どちらが良いとか悪いでは無く、サービスの目的と文化の違いだと思います。
アメリカ系の経験のある客室乗務員は、イザという時は強いかも知れませんね。

でもお客さんの立場からすると気遣いのある日系の方が良いでしょう。日本とい
うのはこの気遣いを、普段の生活の中で当たり前を受けられる社会です。でもそ
れを続けられると、相手に気づいてもらうことが当たり前になっちゃう。

そう自分が言わなくても済んでしまう環境。

でもそんな環境は世界でも稀ですね。自分から必要なこと、自分の意思を
伝えることが出来ないと取り残されるし、極端な話生き残れないと思います。

よくコミュニケーションで大切なのは「聞く」ことだという話を聞きますね。
確かにより良いコミュニケーションには聞くことは大切です。

でも一番最初に何かを伝えるには、やはりこちらから「話す」ことをしないと
待っていても何も始まりません。

特に子育ての中では「聞く」ことよりも、自ら「話す」ことを、まずは
子供が身につけることの方が私は大切ではないかと思っています。

例えばモモが以前に通っていた幼稚園で こんな事がありました・・・

この幼稚園は親参加型の学校で、 ママ（妻）や私も、年に何回か園内で、先生達と共に子供たちの世話をする 機会がありました。

ある日、私が園内で子供達を見ていると、 ある4、5歳の白人の子供が棚の上にある道具箱を取りたくて近くにいた私に言いました。

「Excuse me, please take that box. I can't reach. (すいません、あの箱を取ってください。私は届かないので。)」

としっかりとした口調です。

OKと言って、そのおもちゃを取ってあげたら サンキューと言ってその子は去っていきました。

・・・これって意外と簡単そうで、出来ない子供が多いんですね。

実は私の娘のモモもかなりのもじもじ君なので、 こうやって自分が必要なことを得るために、 誰かに言葉で助けを求めるのが まだまだ苦手。

よく知らない人に対してはなおさらです。

自分の目的を達成するために、 他の助けが必要な時、 それを言葉で依頼して得ること。 子供にとっても、そして大人になってからは 更に大切になるスキルだと思うんですね。



これは私自身にとっても未だに課題のひとつです。

グローバルなコミュニケーションというと、英語や外国語を学ぶことに目がいきますが、基本は自分の国の言葉で、言いたいことを受身でなく、自分からアクティブに伝える習慣を子供の頃から身に着けることでしょう。

では、子ども自身が自分の伝えたい事を 言えるようにするには、これは前回のその二の内容と重なりますが、子供が話せる環境を家庭で作ってあげる。それが一番大切でしょうね。

例えば子供の話を聞いてあげて、それをこちらが復唱してあげるのも良い方法かも知れません。例えば「そうなんだ、今日は幼稚園で〇〇〇があって、〇〇ちゃんは、〇〇〇をやって、〇〇〇を〇〇〇だと思ったんだ〜」と、まどろっこしいようでも一つ一つの言葉を繰り返してみるんですね。

そうすると子供は「お母さんは私のことをちゃんと分かっている」と思えるし、そしてお母さんの話から「あ、こういう時はこういう言葉を使うんだ」という様なことを学ぶことが出来るのではないのでしょうか。

また子供は親の鏡ですから、そうやって親が「聞く」という姿勢を見せることで、子供が人の話を聞くことが出来るようにきつとなります。そう、まずは見本を見せることですね。

で、最後に英語などの外国語を学ぶことについて。

正直なところ私自身が33歳の時にアメリカに来て、それから英語を勉強した方なので、大人になってからでも全然遅くないと思ってます。

もちろんネイティブとは違って発音は日本語なまりで、聞き取りも決して上手では無い。英文を読むにも時間は掛かるし、書いてもスペルの間違いだらけ。

でもいちおうアメリカの大学を出たし、中国系アメリカ人の妻とは英語で話してるし、英語を使って仕事もしている。そもそも英語でコミュニケーションをして結婚したところがすごい！（笑）

そう、よっぽど翻訳とか通訳とか、英語とか外国語を専門に職業として使う仕事でなければ、“伝えるという意味”があればなんとかなるものなんですね。

ただ本当に語学力をつけるために子供の頃から始めるのなら、まずは“聞く”ということから始まるべきでしょう。

子供が育つ過程で母国語を憶える順番は基本的に、

「聞く⇒話す⇒読む⇒書く」なのだそうです。

だから外国語を学ぶのも同じように

「聞く⇒話す⇒読む⇒書く」が理想だといえます。



だから出来るだけ沢山聞く、それも子供にとって楽しいものや、好奇心をそそるものがないかと。

例えば英語の絵本を読んであげれば、ストーリーを聞きながら見るくことが出来ます。そう、子供は何かストーリーがある方が好奇心を持つし楽しいですね♪

またオーディオブックなんていう方法もあります。モモは車に乗っているときはいつも中国語のオーディオブックのCDを聞いています。意外と車の中というのは集中しやすいのかも知れません。

そしてもちろん日常会話の中で外国語を使えれば一番ですが、我が家のように国際結婚の家庭でもない限り、これはなかなか難しいですよ。

そこで英語教室、中国語教室のようなクラスへ通ったり、外国人の友達を作ったりして、実際のコミュニケーションを聞く機会を作りたいですね。

ここでのポイントは「勉強」のための外国語ではなくて、何か楽しいことや興味のあることを外国語を通して聞く、体験することでしょう。

英語嫌い、外国語嫌いになった子供達の多くは、それを「勉強」することを強いられてしまったが故に、その楽しさや本来の目的であるコミュニケーションを取るということを見失ったことが原因だと言われます。

子供の外国語を通して得たいこと、絵本であればそのストーリーを知ること、クラスであれば先生の外国での面白いストーリーを知ること、そして違う言葉の持っている面白さを楽しむこと、それらの目的にフォーカスすることで、子供の外国語への興味を引き出してあげたいですね。

グローバル（国際派）な子育ての3つのヒントということで、私なりの考えをお話してみましたが、いかがでしょうか？

世界中の情報が簡単に手に入る現在、何となく世界が身近になったような気がします。でも実際に自分の目で見たことのある人、海外に住んだことのある人は、まだまだ少ないようです。

また海外へ出てみて初めて自分の国のことを知ったとか、興味を持つようになったという人も、私も含めて多いようです。

さらに英語などの語学力だけでなく、多くの大人達が基本的なコミュニケーション能力に不安のあるのが現実です。

その様な中だからこそ、この3つが国際派の子育てには大切だと考えます。

1. 違う世界がある事を知ること
2. 自分したこと（国）の事を知ること
3. コミュニケーションする力をつけること

これからのグローバルな社会を、自らの知恵と勇気で生き抜くことが出来るたくましい子供、そして大人に育てるための参考になれば幸いです♪

著者：勝田 守 (Mamo Katsuta)

現在ロスアンゼルス在住、妻と共に7歳の娘の子育てに奮闘中。1998年に渡米、大学に通いながら1999年に Nature's Story USA Inc. を設立し、ナチュラルパーソナルケア製品、サプリメント等の日本向け輸出を始める。2007年に娘が誕生してから現在の子供達が置かれている環境とそれが与える健康の問題、また教育に興味を持ち、その情報発信と子供向けサプリ販売のためのウェブサイト(Momokiss.com)をスタートした。また既存の学校教育への疑問からホームスクールという制度に興味を持ち、CHN（カリフォルニア・ホームスクールネットワーク）にメンバーとして参加。毎年CHN主催のエキスポ&セミナー等に参加するなど、学校というシステム中心では無く、家庭での親子やコミュニティー中心の教育方法などを妻と共に学習&実践中。

ウェブサイト：<http://momokiss.com>

ご感想・お問い合わせ：info@momokiss.com

